

八王子市の待機児童問題 幼老複合施設を用いた解決策の提案

Issue on children wait-listed for nurseries in Hachioji city
Proposal for a solution using complex facilities for children and elderly people

杏林大学 総合政策学部 チームぱんだぱんだ
大蘆 梨花子¹⁾, 田上 晴菜¹⁾, 土井 涼有¹⁾, 篠澤 美雨¹⁾, 西崎 貴之¹⁾, 上原 大幸¹⁾
指導教員:半田 英俊, 研究協力者:井上 知和²⁾

1) 杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 半田研究室 2) 社会福祉法人 江東園
キーワード:待機児童, 幼老複合施設, 少子高齢化, 世代間交流

1. 待機児童問題とは

厚生労働省ホームページに掲載されている「保育所等利用待機児童の定義」によると、「待機児童とは保育の必要性の認定がなされていて、特定教育・保育施設、又は特定地域型保育事業所の利用の申込がされているが、利用していない児童のこと」とされている。2019年4月1日時点の日本では、約1万6000人もの待機児童が確認されている。そして、特に東京都では、他の道府県と比べても、3,690人と多くの待機児童がいることが下のグラフからもわかる。

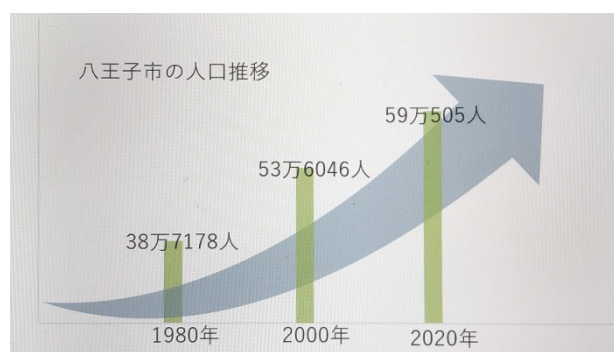
順位	都道府県	保育所等待機児童数
1	東京都	3,690人
2	沖縄県	1,702人
3	兵庫県	1,569人
4	福岡県	1,232人
5	埼玉県	1,208人

これに対して、政府は2016年から「子育て安心プラン」という政策を実施してきたが、隠れ待機児童が明るみに出たことや、保育所・保育士不足等の理由によりなかなか解決していない。

中でも保育所不足は都市部において増設することができる場所が少ないため、特に問題視されている。

2. 八王子市の取り組み

八王子市の総人口は40年間増加し続けているが、その一方で、2018年から2019年での待機児童者数は減少している。



しかし、「年少人口」と「老年人口」の推移をみると少子高齢化が進んでいることが分かり、年少人口数と待機児童者数の変動を割合で確認すると、2018年は0.2%、2019年は0.1%とあまり変化がないことがわかる。



それを改善するために八王子市で取り組まれていることが、「子育てがしやすい住まいづくりの推進」である。

このような取り組みが進められ、少子化が改善されたとき、次に問題視されるものは待機児童であるという考えに至った。そこで提案したいプランが、幼老複合施設での保育である。

3. 幼老複合施設とは

幼老複合施設とは、保育園や学童保育所などの子供用の施設と老人ホームやグループホームなどの高齢者の介護施設が一体になったものをいう。この施設は、土地や建物の有効活用について見込みがあるだけではなく、高齢者と子供の世代間交流が期待できる。

実際に、江戸川区にある「江東園」という社会福祉法人では、高齢者と児童、障害者の福祉が充実した施設が存在しており、地域や施設と連携して共生社会を築いている。

4. メリット

①高齢者のメリット

子供に対しての気配りや目配りをする機会が増えて、脳の活性化が期待できる。子供と遊ぶことで活動量の増加が期待できる。よって自分自身への存在価値を再確認でき、生きがいを持てることや、笑顔が増える。

②子供のメリット

家庭内では学ぶことのできない挨拶やマナーを高齢者から学ぶ事ができ、幅広い知識を身に付ける事ができる。お年寄りをいたわる優しい気持ちや思いやりの心を育む事ができる。

③親のメリット

親の力だけでは及ばない部分を高齢者に助けてもらえる。様々な世代の方が子育てに携わることで、子育ての内容がより豊かになる。

④事業主のメリット

複合化によって土地や既存施設の有効活用ができる。さらに新設と比較した場合建設費は約半分に抑える事ができる。介護士と保育士がいる事で

特色あるケアの実現が可能になる。そして同施設内に子を預けられる事で、子を持つスタッフ採用にもつながる。

5. デメリット

①怪我のリスク

児童の危機察知能力が低いことと、高齢者の運動能力の低下によって怪我を引き起こす可能性がある。

②感染症リスク

高齢者は施設内で生活をしているため外部から菌を持ち込むことはないが、児童は自宅から通ってくるため菌を持ち込む可能性が高い。

③介護士・保育士不足

両スタッフともに人材不足といわれている中高齢者と子供、双方の世話をすることが必要とされている。

6. 結論

以上のようなメリット、デメリットを踏まえた上で、メリットの方が大きいと考えたことから、この提案を八王子市で実施して欲しいと考える。

なぜならば、少子高齢化問題に直面している現在、八王子市でも待機児童問題と向き合わなければいけないことが予想されるからである。

使用者にも事業者にもメリットがある幼老複合施設の普及によって、さらなる雇用を生み出すことができるとともに、世代間交流のできる触れ合いの場を設けることができると結論づけたい。

<参考資料>

「東京都八王子市の人口推移」『日本の人口推移』
(<https://population-transition.com/population-697/>)

『八王子市』公式ホームページ
(<https://www.city.hachioji.tokyo.jp>)

『LIFULL 介護ホームズ』
(https://kaigo.homes.co.jp/qa_article/96/)